

日本骨髄バンクの現状（平成 26 年 5 月末現在）

	4 月	5 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,443	2,315	445,854	613,444
患者登録者数	268	240	2,630	41,911
移植例数	108	102	—	16,942

■ 5 月の年齢別ドナー登録者数（現在数）

10 代	3,113 人
20 代	72,269 人
30 代	149,763 人
40 代	175,294 人
50 代	45,415 人

■ 5 月の 20 歳未満の登録者 323 人

注) 平成 24 年 7 月より集計方法が変わりました。

■ 5 月の区分別ドナー登録者数： 献血ルーム／ 584 人、献血併行型集団登録会／1,594 人、集団登録会／80 人、その他／57 人

■ 5 月末までの末梢血幹細胞移植（PBSC T）累計数： 45 件

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 定款変更に関する内閣府の認定について

「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の施行に伴って、本年 4 月 1 日から、かねてより本法人が骨髄・末梢血幹細胞について実施している、①患者主治医からの移植医療に関する医療相談、②移植に用いた細胞に関する研究申請受付及び審査、③国際協力に関する審議・検討、の各業務について、臍帯血移植に関しても含めることとなりました。

そこで、本法人の目的及び事業内容に変更が生じたため、3 月の通常理事会および臨時評議員会において、定款を一部変更する旨、及び内閣府公益認定等委員会へ変更認定の申請をする旨、議決されました。そして定款の登記後、公益認定等委員会に変更申請を行っていたものです。

今般、審査の結果、変更が認められ、公益認定等委員会から変更認定の証明書が発行されました。

2 第 2 回アドバイザーボードの開催について

アドバイザーボードは、ボランティア団体の方や当法人の理事・評議員の経験者および委員会関係の方々メンバーとなって、骨髄バンク事業に関して大所高所からご意見をいただく場として、平成 24 年度に設置され、年 1 回開催されています。本年 5 月 14 日に第 2 回目を開催しました。

近年、55 歳の年齢超過等によるドナー取消者数は年々増えており、このまま続くと登録者数が減少傾向に転じることが懸念されています。

従って、できるだけ長い期間骨髄バンクにご登録いただけるよう、とくに若い世代のドナー登録者の確保が喫緊の課題になっており、法律の基本方針にも、若年層の積極的・重点的なドナーリクルートの必要性が掲げられています。

そこで今回は、「若年層へのドナーリクルートのための効果的な広報活動のあり方について」を主要テーマとして取り上げ、法施行後の新しい枠組みが作られつつある中で、今後骨髄バンクとしてどう取り組んでいくべきかについて、メンバー間で活発な議論が交わされました。

3 早稲田大学との産学連携プロジェクトに参加

当法人は今般、早稲田大学の産学連携プロジェクト「プロフェッショナルズ・ワークショップ」に参加します。同プロジェクトは企業や団体・自治体が実際に直面している問題について、早稲田大学の有志の学生・大学院生が企業・団体と共同で問題解決に取り組み、学生ならではの視点や感性を活かした解決策を提案するものです。新しい形の実践型産官学連携の教育プログラムとして 2007 年からスタートし、これまで多くの企業や団体が参加してきています。

骨髄バンクでは多くのドナー、特に若い世代のドナー登録を増やすことが大きな課題となっています。今回取り組んでもらうテーマは「20 代の骨髄バンクドナーを増やそう！献血ルームでドナー登録をしてもらうための施策を提案せよ！」。最終報告は 9 月 13 日に福島で開催する骨髄バンク推進全国大会の場で発表する予定です。

「プロフェッショナルズ・ワークショップ」のホームページ <http://www.waseda.jp/wpo/propro/>

4 福井県敦賀高校の講演会に 900 人参加。今年度も語り部講演会を推進

5 月 27 日、福井県立敦賀高等学校で講演会が行われました。「命のリレー」をテーマに、骨髄移植前に精子を凍結保存し、その後ご子息に恵まれた元患者さんと敦賀高校OBの提供ドナーの講話に、約 900 人の生徒の皆さんが熱心に耳を傾けました。

当法人では講演会やセミナー、研修会に、元患者さんや提供ドナーを語り部として派遣する「語り部事業」を推進しています。昨年度は企業や団体・自治体をはじめ、小学校から専門学校・大学まで約 80 か所で開催しました。

10 年、20 年先を見据えた若年層の新規ドナー登録の開拓が重要課題です。企業・団体はもちろん、児童や生徒、学生の皆さんに「命の大切さ」を伝える講演会を積極的に行っています。詳しくは広報渉外部（03-5280-8111）までお問い合わせください。

5 高知県庁・高知県内各ライオンズクラブ協力で集団ドナー登録会開催

本年 5 月 17 日、イオンモール高知において、高知県と地元ライオンズクラブ（以下 LC）の合同で集団ドナー登録会が開催されました。

医師と看護師は高知県より派遣され、設営準備や登録会場周辺での呼びかけ、登録希望者への説明は高知黒潮 LC のメンバーが行い、54 名の方がドナー登録されました。

集団登録会に先立ち、前日 16 日に高知市内で「日本骨髄バンクと高知県下骨髄バンク支援者の意見交換会」が開催されました。高知県内の各 LC では 28 名のメンバーが説明員を委嘱されており、登録会以外にも講演会の開催や県内企業へのドナー休暇制度導入の働きかけ、オリジナル登録会 PR 用 DVD の作成等、骨髄バンク事業へ積極的な協力活動を行っています。意見交換会には高知県庁、日本赤十字社、LC、学生、ボランティア等 40 名が参加しました。当法人のホームページで今回の集団ドナー登録会の様子を紹介していますのでご覧ください。
<http://www.jmdp.or.jp>

6 非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科の認定について

下記の施設が新たに非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科として認定されました。これまでに認定された施設は 81 施設です。

◆非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科

・採取施設

亀田総合病院

パナソニック健康保険組合 松下記念病院

・採取施設

下記 2 施設は造血幹細胞測定体制が確認され、採取施設認定の留保が解除となりました。

富山赤十字病院

東京女子医科大学病院

・移植診療科

同左 血液・腫瘍内科

同左 造血細胞移植部

新規認定施設については、当法人ホームページ＞患者さんへ＞移植認定病院およびドナー登録されている方へ＞面談施設一覧でもご覧いただけます。

7 読売巨人軍 杉内投手の新ポスター、応援メッセージ完成

読売巨人軍は 2006 年から「助かる命を助けよう！」をスローガンに骨髄バンクを支援しています。杉内俊哉投手は自らもドナー登録をし、登録を呼びかける啓発ポスターを自費製作しています。今年も新しいポスターを製作していただきました。同ポスターを職場や学校で貼っていただける方を募集しています。ご希望の方は当法人のホームページの応募フォームからお申し込みください。

また、杉内投手からの応援メッセージを東京ドームのオーロラビジョンで放映しています。同映像は YouTube の日本骨髄バンク公式チャンネルでもご覧になれます。

<http://www.youtube.com/user/jmdpmv>

8 「友情～秋桜のバラード～」が 9 月より全国 33 ヶ所にて上演決定

白血病の副作用で髪の毛が抜け落ちた主人公の 14 歳の少女を励まそうと、クラスメートが頭を丸め、彼女を温かく迎え入れたという米国での実話に基づく感動の舞台「友情～秋桜のバラード～」が 9 月 3 日（水）、台東区立浅草公会堂を皮切りに全国 33 ヶ所で上演されます。

初演から 15 年、今年の公演期間中には上演回数 500 回目を迎えます。主演に松方弘樹さんを迎え、釈由美子さん、池上季実子さん他、豪華キャストが出演します。また歌謡ショーも同時開催します

公演スケジュール等の詳細は劇団絵生のホームページをご覧ください。 <http://www.yu-jo.net/>

※お詫びと訂正

4 月 15 日発行のマンスリー JMDP の「認定施設別の移植・採取件数」において、末梢血幹細胞移植採取認定病院である「P」マークの箇所に誤りがありました。

誤) 右端下から 18 行目「独立行政法人国立病院機構九州医療センター」に「P」マーク

正) 右端下から 14 行目「独立行政法人国立病院機構熊本医療センター」に「P」マーク

9 当法人の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に当法人総務部までお申込みください。

会議名	公開・非公開	開催予定
広報推進委員会	公開	6月19日(木) 17:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室
通常評議員会	公開・一部非公開	6月23日(月) 14:30～ 廣瀬第2ビル地下会議室
臨時理事会	公開・一部非公開	6月23日(月) 16:00～ 廣瀬第2ビル地下会議室
ドナー安全委員会	非公開	6月29日(日) 12:30～ 廣瀬第2ビル地下会議室
業務執行会議	公開・一部非公開	7月18日(金) 17:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

10 ドナー適格性判定基準の改訂について<調整医師の方へ>

日本赤十字社の献血基準変更に伴い、下記の項目についてドナー適格性判定基準の追加・変更を行いました。別添資料をご確認ください。また下記 URL (日本赤十字社 HP) からのご確認いただけます。

・マラリア対象地域

添付：マラリア流行地域判断基準一覧表

http://www.jrc.or.jp/vcms_lf/ketsueki_20140509_mararia.pdf

11 検体保存事業用検体の梱包方法変更について<認定施設の医師の方へ>

これまで、採血管を発泡スチロール容器に入れて検体保存施設に発送していただいていたのですが、検体移送中に血液が漏れた場合に備え、検体の梱包方法を変更します。

梱包方法につきましては、6月16日以降、順次、骨髄バンクから発送する採血管等に同封の「検体保存事業用検体 梱包方法について(梱包手順書)」をご確認の上、ご対応くださいますようお願いいたします。念のため梱包手順書の見本(別紙)を本紙に同封します。

なお、既にお手元に届いている容器は、これまでどおり送付していただいて差し支えありません。

12 2014年度 全国調査 本登録データ提出のお願い<移植施設の方へ>

6月10日に日本造血細胞移植データセンター(JDCHCT)/日本造血細胞移植学会(JSHCT)から「2014年度全国調査本登録データ提出のお願い」が発出されました。提出期限は9月30日(火)必着となっていますのでご対応のほど、よろしく申し上げます。

詳細は、別添「2014年度 全国調査 本登録データ提出のお願い」をご確認ください。